

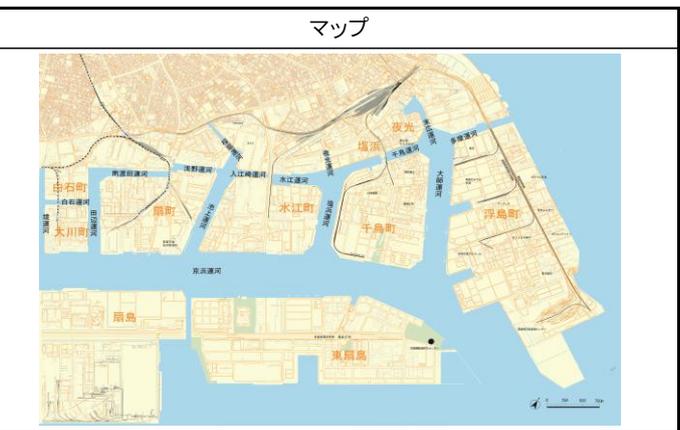
# かわさき区の宝物シート

宝物No.	こうわんしせつ(うめたてち) <b>港湾施設(埋立地)</b>		
28-1			
エリア	臨海部全域	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



写真提供：川崎市まちづくり局都市計画課/港湾局管理課

所在地	川崎区臨海部
問い合わせ	川崎市港湾局
TEL	044-200-3049
FAX	044-200-3981
E-mail	58shomu@city.kawasaki.jp
URL	<a href="http://www.city.kawasaki.jp/58/58kikaku/home/shoukai/rekishi.html">http://www.city.kawasaki.jp/58/58kikaku/home/shoukai/rekishi.html</a> (川崎市港湾局)
交通	



## 基礎情報

- 川崎港は、江戸中期からの新田開発に端を発し、明治以降現在に至るまでの本格的な埋立事業によって造成されてきた港である。川崎市が管理する公共ふ頭と、企業が所有する専用ふ頭からなり、様々な都市・港湾施設が立地している。
- 埋立地には、東扇島（シビルポートアイランド）にコンテナバースを含む25の公共係船施設がつけられ、川崎マリエン(H4)や東京湾岸道路（H6）・東京湾アクアライン（H9）など様々な周辺施設が整備されているほか、東扇島西公園（H16）や東扇島東公園（H20）など市民の憩いの場がつけられている。

## 由来・エピソード

- 江戸時代中期から池上幸豊らによる新田開発が進められ、明治の中頃までには池上、田辺、小島、夜光等の各新田が造成された。その後、欧米諸国巡遊を体験し、工業の必要性を痛感した浅野総一郎が、明治41年(1908)、洪澤栄一、安田善次郎らと「鶴見埋立組合」を結成し、明治時代末から昭和時代前期にかけて、浅野町、大川町、南渡田町、扇町などの海面を埋め立てた。土地造成事業が進められると、湾岸を利用する大企業が進出し、それぞれ専用埠頭を設け、原材料を輸移入し製品を輸移出すという総合的な港湾機能が確立、京浜工場地帯の中核が形成されていった。
- 神奈川県も昭和12年(1937)以降、現在の水江町、夜光町の一部の造成を行ったが、第二次大戦後の戦災復興が優先され、昭和20年(1945)に事業は中止された。戦後の食糧事情が深刻化してくると、昭和22年(1947)には国が食料や肥料の輸入を企画。その荷揚場を川崎市千鳥町に建設した。川崎港における公共ふ頭の始まりであった。昭和25年(1950)の港湾法制定により、川崎市が港湾開発、港湾運営に関する一切の業務を行う港湾管理者となった。特定重要港湾に指定された後には、昭和31年(1956)の港湾審議会の決定を経て、浮島町と千鳥町が造成され、石油コンビナートをはじめ様々な工場が新たに立地を開始し、また防波堤の延長や川崎航路の新設など港としての形態が整えられてきた。
- 現在も埋立事業は進行し、浮島では一般廃棄物、建設発生土、浚渫土砂等の廃棄物を利用した埋め立てが行われ、「浮島1期計画」の完成後、平成7年度から「浮島2期計画」が現在も継続されている。

## 補足・その他

- 明治以降の埋め立て総面積は20.52km<sup>2</sup>にも及び、川崎区の面積40.25km<sup>2</sup>（平成22年現在）の半分を超えるに至っている。
- 港湾施設(埋立地)へのアクセスは、埋め立て地を東西に走る首都高湾岸線と、浮島と千鳥町の北からの入口となる浮島橋や千鳥橋の他に、千鳥町と東扇島を海底で結ぶ全長約1kmの川崎海海底トンネルがある。この海底トンネルには自動車専用道路と歩行者専用の通路があり、歩行者専用通路の入口はちどり公園の中の管理棟にある。自転車の走行は禁止されているため、押して通行する必要がある。

## 関連シート

- (17-4)浮島つり園
- (19-1)「川崎漁業ゆかりの地」碑
- (19-2)川崎マリエン
- (19-3)川崎の海苔づくり資料室
- (19-6)東扇島西公園
- (28-2)川崎港・運河
- (32-3)池上幸豊

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきこう・うんが <b>川崎港・運河</b>				
エリア	臨海部全域	シーズン	通年		
	—	日時			
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他				
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物				
所在地	川崎区臨海部				
問い合わせ	川崎市港湾局				
TEL	044-200-3049				
FAX	044-200-3981				
E-mail	58shomu@city.kawasaki.jp				
URL	http://www.city.kawasaki.jp/58/58kikaku/home/top.html (川崎市港湾局)				
交通					
	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 0.5; border-left: 1px solid black; padding-left: 5px;"> <p style="text-align: center;">マップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①京浜運河</li> <li>②境運河</li> <li>③白石運河</li> <li>④田辺運河</li> <li>⑤南渡田運河</li> <li>⑥浅野運河</li> <li>⑦池上運河</li> <li>⑧桜堀運河</li> <li>⑨入江崎運河</li> <li>⑩水江運河</li> <li>⑪塩浜運河</li> <li>⑫夜光運河</li> <li>⑬千鳥運河</li> <li>⑭大師運河</li> <li>⑮末広運河</li> <li>⑯多摩運河</li> </ul> </div> </div>				
<b>基礎情報</b>					
<p>■川崎港は埋め立てによって造成されてきた港で、川崎市が管理する公共ふ頭と、企業が所有する専用ふ頭からなっている。今や国際的な貿易港となった川崎港では、石油や鉄鉱石、食品などが輸出入されている。</p> <p>■名前のついた運河だけでも16あり、産業を結ぶ重要な交通網として臨海部の企業・工場群を支えている。</p>					
<b>由来・エピソード</b>					
<p>■明治時代末から昭和時代前期にかけて、浅野総一郎、渋沢栄一、安田善次郎らによって浅野町・大川町・南渡田町・扇町などの海面埋立事業が進められると、湾岸を利用する大企業が臨海部に進出し、専用埠頭を設け、原材料を輸移入し製品を輸移出するという総合的な港湾機能が確立し、京浜工場地帯の中核が形成されていった。</p> <p>■神奈川県も昭和12年(1937)以降、現在の水江町、夜光町の一部の造成を行ったが、第二次大戦後の戦災復興事業が優先され、昭和20年(1945)12月に事業は中止された。ところが戦後の食糧事情が深刻化してくると、昭和22年(1947)には国が食料や肥料の輸入を企画。その荷揚場を川崎市千鳥町に建設した。これが川崎港における公共埠頭の始まりであった。</p> <p>■昭和25年(1950)、港湾法の制定により港湾の開発・運営に関する業務はすべて港湾のある地域で行うことになった。翌年に川崎市が港湾管理者となり、名実ともに川崎港の誕生となった。また特定重要港湾にも指定された。</p> <p>■その後の川崎港開発は、昭和31年(1956)4月の港湾審議会で決定された計画に基づいて行われた。浮島町や千鳥町の造成や、石油コンビナートや公共埠頭、防波堤などの建設が行われ、港としての形態が整えられてきた。近年では東京湾岸道路や東京湾アクアラインが開通したことによって、川崎港への交通アクセスは飛躍的な向上をとげている。</p>					
<b>補足・その他</b>			<b>関連シート</b>		
<p>■川崎臨海部の埋め立て工事の際に、海底の土砂を掘削するドリルの刃先として使用された「カッターヘッド」が、東亜建設工業から川崎市へ寄贈され、現在は川崎市市民ミュージアム(中原区)の中庭に展示されている。このカッターヘッドは、事業に参画した浚渫船「六郷丸」のポンプ先端部分に取り付けられていたものである。</p> <p>■平成6年(1994)1月にベトナム・ダナン港と友好港の提携がなされ、研修生の相互派遣による技術支援や情報交換などが行われている。</p>			<p>(19-1)「川崎漁業ゆかりの地」碑</p> <p>(19-2)川崎マリエン</p> <p>(19-3)川崎の海苔づくり資料室</p> <p>(28-1)港湾施設(埋立地)</p>		

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	こうじょうやけい		
28-3	<b>工場夜景</b>		
エリア	臨海部全域	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		
所在地	川崎区臨海部の工場地帯		
問い合わせ	川崎市経済労働局産業振興部観光プロモーション推進課 川崎市観光協会		
TEL	044-200-2327 044-544-8229		
FAX			
E-mail			
URL	http://www.k-kankou.jp/study_tourism/night/index.html (川崎市観光協会HP内 川崎工場夜景サイト)		
交通			



写真提供：川崎市

### 基礎情報

- 川崎の臨海部に展開する京浜工業地帯。多数の工場が密集するこの地域では、夜を迎えると様々なプラントに明かりが灯り、多くの人を魅了する景色は「工場夜景」として注目を集めている。
- 工場夜景は東扇島東公園など川崎市内の沿岸部で見られるほか、屋形船に乗って運河から直接眺める「川崎工場夜景クルーズ」や地上をバスで巡る「川崎工場夜景バスツアー」が民間会社と川崎市の共同企画で行われ、機械的、幾何学的に入り組むパイプやタンク、煙突が工場の光で浮かび上がる幻想的な様子が人々をひきつけ、新たな観光資源となっている。

### 由来・エピソード

- 明治末期に始まった、市（当時は川崎町）を挙げての工場の誘致活動や浅野総一郎の埋め立てにより、海苔養殖や製塩が主産業であった川崎臨海部は工業地帯に姿を変えていった。高度経済成長期には、京浜工業地帯の中心として日本の産業を支え、現在では、石油・鉄鋼・電気・機械・環境など様々な基盤・先端技術産業が集積している。工業地帯の夜景は、稼働しているこれらの石油化学コンビナートや工場の夜間照明やフレアスタック（余剰ガスを無害化するために焼却する際に出る炎）、煙突、配管などの構造や機能性を眺めるのが特徴である（なお、煙突から出ているのは水蒸気である）。具体的には、川崎の工業発展を支えてきた東亜石油、JX日鉱日石エネルギー、昭和電工、JFEスチール東日本製鉄所、東京電力、東燃ゼネラル石油、日本冶金、日本ゼオン、旭化成ケミカルズなどの工場群である。
- 川崎市は平成17年(2005)7月、産業都市としての歴史や魅力を知ってもらうとともに、地域の活性化を図るため、川崎市、川崎市観光協会、川崎商工会議所を中心に、学識経験者、関係企業、観光事業者、各種団体などで構成する「川崎産業観光振興協議会」を設立した。川崎が誇る鉄鋼、食品などの各種工場などを巡る「川崎産業観光ツアー」や「川崎産業観光検定試験」を実施するとともに、川崎産業観光シンポジウムなどを開催している。
- 平成20年(2008)に、川崎市と川崎市観光協会連合会が市内を巡る8回のモデルツアーを実施した結果、非常に好評であったが、特に「工場夜景ツアー」の評判が高かった。そこで、川崎臨海部の工場夜景を楽しんでもらおうと、平成22年(2010)1月から屋形船、4月からバスツアーの定期運行が開始された。これが若いカップルや女性グループをはじめ、小学生から80歳代まで幅広い世代で人気となり、川崎臨海部の工場夜景が一躍脚光をあびることとなった。
- 川崎工場夜景バスツアーは、毎週土曜日に実施されている。工場夜景ナビゲーターによる解説で、知られざる工場夜景スポットをまわる。普段は入ることのできない夜景スポットから、幻想的な工場群を見ることができる。
- 川崎工場夜景屋形船クルーズは毎月第2、第4土曜日に実施されている。川崎駅発着の送迎バスから、塩浜で屋形船に乗り換え、川崎臨海部の各運河を巡る。屋形船では工場夜景ナビゲーターの解説を楽しみながら、海上に浮かび上がる川崎の工場夜景を眺めることができる。
- 川崎工場夜景の詳細については、上記「川崎工場夜景サイト」を参照。

### 補足・その他

- 平成23年(2011)3月、川崎区役所地域振興課で「かわさきの工場夜景」ペーパークラフトを作成。  
TEL：044-201-3136  
URL：http://www.city.kawasaki.jp/61/61kusei/home/papercraft/index.html  
(川崎区役所HP/かわさきの宝物ペーパークラフト)

### 関連シート

- (16-3)屋形船
- (28-1)港湾施設(埋立地)
- (28-2)川崎港・運河

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	ししていぶんかざい
29-1	<b>市指定文化財</b>

エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	
問い合わせ	川崎市教育委員会生涯学習部 文化財課
TEL	044-200-3305
FAX	044-200-3756
E-mail	
URL	<a href="http://www.city.kawasaki.jp/880/category/10-6-2-0-0-0-0-0-0.html">http://www.city.kawasaki.jp/880/category/10-6-2-0-0-0-0-0-0.html</a> (川崎市内文化財案内)
交通	



六字名号碑と弘法大師への道（川崎大師平間寺） 紙本着色地藏菩薩及び十王図（明長寺）



手洗石（稲毛神社）



庚申塔（真福寺）



平川家文書

### 基礎情報

■川崎市には現在、建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料、無形民俗文化財、民俗資料、史跡、天然記念物の12分野からなる、計110の市指定文化財がある。(平成27年(2015)4月現在)

■市指定文化財の区分

(1)市重要歴史記念物 (2)市重要習俗技芸 (3)市重要郷土資料 (4)市重要史跡 (5)市重要勝地 (6)市重要天然記念物

### 由来・エピソード

■平間寺所有の20の市指定文化財のほか、稲毛神社の「手洗石」、明長寺の「紙本着色地藏菩薩及び十王図」、個人所有の「平川家文書」、真福寺の「庚申塔」が川崎区にある市指定文化財である。

### 補足・その他

■国指定文化財（14件）や県指定文化財（26件）、国登録有形文化財（3件）、国登録記念物（1件）、県選択無形民俗文化財（1件）を加え、市内には全部で158件の指定文化財が保存されている。〈平成27年(2015)4月現在〉

■川崎区内には、国指定重要文化財として、明長寺の「葵梶葉文染分辻が花染小袖」、国登録有形文化財として「川崎河港水門」、「昭和電工川崎事業所本事務所」、県指定重要無形民俗文化財として「沖縄民俗芸能」、県選択無形民俗文化財として「川崎山王祭りの宮座式」があげられる。

### 関連シート

(1-15)稲毛神社 手洗石  
(5-5)川崎河港水門  
(6-9)沖縄民俗芸能  
(10-17)川崎大師平間寺  
(25-1)昭和電工(株)川崎事業所本事務所

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	たろうのゆめ <b>太郎の夢</b>
29-2	

エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input checked="" type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	販売店の所在地等は下記参照
問い合わせ	川崎市菓子協議会事務局 (川崎商工会議所中小企業振興部高津支所)
TEL	044-811-2804
FAX	044-811-2836
E-mail	takatsu@kawasaki-cci.or.jp
URL	
交通	



写真提供：菓子匠 末広庵／和菓子処 照月

### 基礎情報

■平成11年(1999)10月、岡本太郎美術館(多摩区)のオープンを記念して、川崎市菓子協議会に加盟する市内の和菓子・洋菓子店では岡本太郎記念銘菓「TAROの夢」の製造・販売がはじめられた。岡本太郎作の絵文字「夢」をテーマに、「TAROの夢」という商品名で各菓子店が、それぞれの技術と創造性でオリジナルの創作菓子を作るという試み。  
■現在、市内における「TAROの夢」の製造・販売店は約12店舗ほど。川崎区内では2店舗において取り扱われている。

### 由来・エピソード

■「TAROの夢」は、岡本太郎氏の大胆な作品とその創作活動に敬意を表し、同氏の養女で秘書を努めていた岡本とし子氏の協力のもと、作り上げられた創作菓子。川崎市と川崎市菓子協議会が話し合いを重ね、各加盟店が思いを込めて、従来の菓子の概念にとらわれない新しい創作菓子を目指した。  
■川崎区では、「菓子匠 末広庵」の口溶けのよいクリームチーズを小豆餡でつつみ、柔らかな生地でコーティングしたものと、「和菓子処 照月」のミネラル豊富な古代米(黒米・赤米)をブレンドしたサブレットタイプのものである。他にも川崎市内では、各店で趣向をこらした様々なタイプの「TAROの夢」が創作・販売されている。

### 補足・その他

■川崎区内の「TAROの夢」製造・販売店(平成28年(2016)1月現在)  
菓子匠 末広庵 川崎区東田町3-16(本店) TEL:044-233-4658  
和菓子処 照月 川崎区京町1-18-1 TEL:044-344-0417

■川崎市菓子協議会多摩麻生支部の加盟店が共同でつくった「TAROの夢もなか」は、川崎市と商工会議所、市観光協会連合会が主催するかわさき名産品認定事業において選ばれたものである。

### 関連シート

(11-2)岡本太郎作「喜び」像  
(29-3)せいれい

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	せいれい
29-3	<b>せいれい</b>

エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input checked="" type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
----	--

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	販売店の所在地等は下記参照
-----	---------------

問い合わせ	川崎市菓子協議会事務局 (川崎商工会議所中小企業振興部高津支所)
-------	-------------------------------------

TEL	044-811-2804
-----	--------------

FAX	044-811-2836
-----	--------------

E-mail	takatsu@kawasaki-cci.or.jp
--------	----------------------------

URL	
-----	--

交通	
----	--



### 基礎情報

■川崎市の市制60周年を記念して昭和59年(1984)に川崎市菓子協議会加盟店によって共同開発された菓子。昭和47年(1972)政令指定都市となり全国屈指の大都市となったが、工都川崎のイメージを一新し、より清潔で清麗な空と緑をもった住みよい街づくりを願って創製販売された。「かながわの名産100選」(昭和60年(1985)・平成19年(2007))のひとつに選定されている。

### 由来・エピソード

■「かながわの名産100選」は、地域の生活・文化と密接なかかわりを持ちふるさとの風土と伝統に培われた物産(工芸品・加工食品・農林水産品)の中から100品目のすぐれた物産を選び、地域に根ざした産業の興隆と地域の人々のふるさと意識の高揚を図ることを目的として昭和60年度に選定されたもの。20年ぶりに改定された新たな「かながわの名産100選」(平成19年(2007)1月)にも選定されている。

### 補足・その他

■川崎区内では現在1店舗で「せいれい」が販売されている(平成28年(2016)1月現在)。  
大黒屋 川崎区殿町1-14-19 TEL:044-288-0097

### 関連シート

(10-14)川崎大師久寿餅  
(10-15)せき止め飴・さらし飴  
(29-2)太郎の夢

# かわさき区の宝物シート

宝物No.	せんとう <b>銭湯</b>		
29-4			
エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		
所在地	川崎区新川通り8-6 (川崎浴場組合連合会事務所)		
問い合わせ	川崎浴場組合連合会		
TEL	044-222-4238		
FAX	044-222-4234		
E-mail			
URL	<a href="http://www.kawasaki1010.com">http://www.kawasaki1010.com</a> (川崎銭湯どっと混む)		
交通			



提供：川崎浴場組合連合会

## 基礎情報

■平成15年(2003)に川崎浴場組合連合会から発行されたミニガイドブック『川崎の銭湯マップ』では、川崎市内の全68軒の銭湯が紹介されている。うち、川崎区内には最多の34軒(平成23年(2011)1月現在)が今も健在で、密度としては全国一であるという。区内に工場労働者が多かった頃の名残であり、川崎区の銭湯は歴史的遺産“宝物”である。

## 由来・エピソード

■日本人にとって「入浴」の歴史はとても古く、奈良時代に端を発するという。江戸時代に現在の銭湯の元となる形式の「風呂屋」が開かれて以降、上下の身分の隔たりのない裸のつき合いができる場所として広く庶民に親しまれてきた。

■昭和40年代が銭湯数のピークとなり川崎市内で約170軒を数えた(川崎区内では昭和47年(1972)に63軒)。また、昭和50年頃までは、どこの銭湯にも脱衣場には赤ん坊用のベッドが並び、世話をしてくれる女中さんがいたことから母親も自分の入浴に専念することができたという。

■川崎区でも現在自家風呂普及率が90%を超えたというが、たまにはゆったりと銭湯に浸かりたいというニーズは根強いという。そうした人達に少しでも足を運んでもらおうと、各銭湯や川崎市浴場組合連合会では様々な工夫を凝らした取り組みを地道に続けている。そうした結果、今でも川崎区では湾岸地域を除く全域に、20の銭湯が存続している。

■神奈川県下の銭湯では、保護者同伴に限り未就学児童2人まで無料という独自のサービスを展開し、また、通常は大人料金となる中学生も生徒手帳持参の場合100円引きの370円で入浴できるというサービスを実施している。子供連れや中学生だけの入浴客が最近増えているという。さらに川崎浴場組合連合会では社会福祉事業の一環として市や各種福祉団体、地域の方と協力し福祉に関連した様々なサービスを実施している。

【敬老入浴デー】(毎週土曜日) 福寿手帳の「入場優待券」の提示により半額で入浴できる

【敬老の日入浴デー】(9月の老人週間のうち、3日間) 市政だよりの「敬老入浴券」の持参により無料で入浴できる

【親子ふれあい入浴デー】(毎月第4土曜日) 小学生以下(保護者同伴のみ)入浴無料

【ふれあいデイセントー事業】会食やミニデイサービスを行っている団体に地域の公衆浴場を開放、介護保険の対象とならない60歳以上の虚弱な方にミニデイサービスを提供している。利用料金は原則500円。川崎区内の実施銭湯は、平和湯(平成28年(2016)1月現在)

## 補足・その他

■川崎浴場組合連合会オフィシャルサイト“川崎銭湯どっと混む”では、銭湯に関するさまざまな歴史が紹介され、市内一軒一軒の銭湯の紹介ページも充実している。昔の銭湯の様子や“写真展”など随時更新予定で、また携帯サイトも平成18年(2006)11月15日にスタートした。  
[www.kawasaki1010.com/mobile](http://www.kawasaki1010.com/mobile)

■毎年好評の特製カレンダーが12月頃市内銭湯などで配布される。



## 関連シート



## かわさき区の宝物シート

宝物No.
29-5

おきなわりょうり  
**沖縄料理**

エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input checked="" type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input checked="" type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区中島2-3-3 (沖縄労働文化会館)
問い合わせ	川崎沖縄県人会
TEL	090-3239-4711
FAX	044-233-8584
E-mail	t-higa@keihinsteel.co.jp
URL	
交通	JR川崎駅よりバス「中島交番前」下車徒歩2分

### 基礎情報

■ビタミンCの豊富なゴーヤチャンプルー、コラーゲンを多く含む豚肉を使ったラフテーなどに代表される沖縄に伝わる伝統的な料理が、ここ川崎にもすっかり定着している。日本の郷土料理の中でも独自の食文化が発達した沖縄料理の大きな特徴は、様々な料理法のある豚肉を使った料理が多く見られることである。  
■京浜工業地帯の働き手として沖縄から川崎に移り住んできた人々とともに、沖縄料理とその食材の数々も川崎へと運ばれてきた。現在、川崎区内には10数軒の沖縄料理店があるといわれている。

### 由来・エピソード

■長寿県・沖縄を支える源は、美容と健康にすぐれた食材をふんだんに使う沖縄料理にあるといわれる。沖縄では食べ物を「クスイムシ」(薬になる体にいいご飯)、「ヌチグスイ」(命の薬)と呼び、伝統的に医食同源の思想が強く、食事によって病気を予防・治療するという風土こそが長寿の秘訣ともいわれている。  
■沖縄料理の代表といえるのが、豚肉を利用した料理。「ひづめと鳴き声以外は全て食べる」と言われる。有名なのはラフテー(角煮)やソーキ(あばら骨の部分煮熟んだもの)であるが、耳の軟骨部分を食べるミミガーや、頭の皮を利用したチラガーなども有名。豚肉をよく煮込むことで余分な脂肪が抜け出すことによって、健康的な料理になるという。また、内臓もイリチーと呼ばれる炒め煮にされるほか、様々な内臓をコンニャクなどとともに入れた中身汁と呼ばれる吸い物などに利用するなど、沖縄の豚肉料理は多彩なバリエーションを誇っている。  
■海藻・海草を用いた料理も盛んで、アーサ(アオサ)の味噌汁、海ブドウも沖縄固有の土産物などとして珍重されている。

### 補足・その他

■川崎区の沖縄料理店  
「がちま家川崎店」駅前本町12-1、「結いま〜る」東田町6-1ミサキベルデ1F,  
「沖縄そば ゆんたく」新川通10-3ラ・ソレイユ1F,「琉球DINING 那ノ華」池田1-16-11 1F,  
「ちゅらさん川崎店」小川2-11,「琉球ダイニングちゅらり川崎店」小川2-11イノクマビル2F,  
「よつ竹支店」小川2-11,「金城」京町2-2-29,「ぬちばな」中島2-3-2,  
「波之上」小田栄1-8-23,「琉球」中瀬3-1-5,「ティーダ」大島3-23-1,  
「がじゅまる」浜町9-3-3 など

### 関連シート

(6-8)川崎沖縄芸能研究会  
(6-9)沖縄民俗芸能

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	でんじゅうろうもも <b>伝十郎桃</b>		
29-6			
エリア	全域 —	シーズン — 日時	通年
目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input checked="" type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		
所在地	幼木のある学校及び事業所は下記参照		
問い合わせ	NPOかわさき歴史ガイド協会		
TEL	044-221-9117		
FAX	044-221-9117		
E-mail			
URL			
交通			







左上：接ぎ木される伝十郎桃の枝  
 右上：春の若葉（写真提供：渡田小学校）  
 左下：冬芽  
 右下：記念碑（大島八幡神社境内）

**基礎情報**

■伝十郎桃は、維新後の明治から大正初期にかけて川崎区大島にて生産されていた川崎発祥の桃である。現在流通する白鳳などの桃のおもとの品種の一つであるが、大正から昭和に起こった急速な工業化により川崎から姿を消していった。

■平成22年(2010)、その伝十郎桃が、川崎市内の小学校と川崎市農業振興センターの協力により、川崎市立殿町小学校、渡田小学校、向小学校、田島小学校、東大島小学校、藤崎小学校で接ぎ木され、その後、平成24年(2012)には、宮前小学校、小田小学校、京町小学校、京町中学校、昭和電工川崎事業所でも接ぎ木されたことで、無事川崎に“帰郷”した。

**由来・エピソード**

■代々農業を営んでいた吉沢家では、明治維新後、農閑期に副業として桃の栽培を手がけていた。父の伝十郎から家業を継いだ寅之助は、栽培とともに品種改良について研究し、明治19年(1896)、土質や気温を選ばず、樹勢がよく病虫害に強い新品種「伝十郎」を開発した。伝十郎は大型で色艶よく、甘味酸味を兼ねており、従来の外国種に比べて良質であったことから、果物同業組合が組織され、東京神田や横浜にも出荷されたという。出荷場所となった大島八幡神社には、伝十郎桃の記念碑が設置されている。

■明治43年(1910)、寅之助はさらに伝十郎桃を改良し、早生種「橘早生」をつくり出した。当時、その収穫時期の早さから、画期的な品種であると評判を呼び、要望のあった全国の農家に配布した。その後各地で品種改良や交配の材料としても使用され、様々な品種が生み出されている。例えば現在でも各地でつくられている「白鳳」は、中国産とされている「白桃」と「橘早生」を掛け合わせたものである。ほかにも福島県の「あかつき」など、現在でも橘早生がそのおもとなっている品種が数多く流通している。

■伝十郎と橘早生の最盛期は明治29年(1896)から大正6年(1917)の21年間であった。その後工場進出による桃畑の減少や農家の減少の影響から、徐々に生産量が減っていった。やがて川崎の港湾一帯は京浜工業地帯の中核となり、市街地化が進むにつれて農地は無くなっていったという。

■平成21年(2009)から川崎市が伝十郎桃の栽培を模索し始めた。初年度はいずれも接ぎ木に失敗したが、翌年には農林水産省の研究機関から幼木を取り寄せて再挑戦した。川崎市農業振興センターの職員らが平成22年(2010)4月中旬、各校で以前からある桃の木やその苗木など計6本に「伝十郎桃」を接ぎ木。無事に葉が付き、各校の職員や児童らにより大切に育てられている。

■平成25年(2013)6月、藤崎小学校の接ぎ木した部分から4個の実がなり、同年7月には「伝十郎桃の復活を祝う会」が開催され、児童や教職員、多くの来賓らによって結実が祝われた。

**補足・その他**

接ぎ木された伝十郎桃の幼木がある小中学校及び事業所  
 殿町小学校、渡田小学校、向小学校、田島小学校、東大島小学校、藤崎小学校、宮前小学校、小田小学校、京町小学校、京町中学校、昭和電工川崎事業所

**関連シート**

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきぎょうざみそ
29-7	<b>かわさき餃子みそ</b>

エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input checked="" type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
----	--

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input checked="" type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物
------	--

所在地	川崎区、幸区、中原区全域
問い合わせ	かわさき餃子舗の会
TEL	044-276-8161
FAX	
E-mail	39@kawasaki-gyouzaho.com
URL	http://kawasaki-gyouzaho.com/ (かわさき餃子舗の会HP)
交通	



### 基礎情報

- かわさき餃子みそは、川崎区、幸区、中原区の中華料理店などで組織された「かわさき餃子舗の会」が、新しいギョーザの食べ方や味の楽しみ方を提案しようと開発したギョーザ専用のみそだれ。横浜市と清川村のみそや川崎市の醤油など、地元の材料にこだわって作られており、「かわさき餃子舗の会」加盟店舗などで販売している。多くの加盟店では醤油などとテーブルに並び、自由に試食できる。
- 「かわさき餃子みそ」7:「酢」2:「ラー油」1の比率で混ぜ、つけだれとすることがおすすめという。みそのコクをしっかりと残しつつ、見た目比べてさっぱりとしていて、飽きずにいくつでも食べられる味に仕上げられている。暑い季節には箸が進み、寒い季節には体が暖まりそうな味である。

### 由来・エピソード

- 川崎駅東口の周辺は焼肉と並んで中華料理の店が多く、餃子は昔から庶民の味として親しまれてきた。川崎市は総務省の「家計から見た品目別支出金額」調査によると、都道府県庁所在地及び政令指定都市別の外食の中華食ランキングにおいて、平成16～18年に全国第1位、平成19年～21年においても全国第3位に位置しており、中華料理の激戦区となっている。
- そんな舌の肥えた川崎っ子の味覚をとらえてやまないのが、川崎の餃子である。平成19年(2007)7月には、「かわさき餃子舗の会」が発足。宇都宮市などの餃子に負けない知名度の獲得を目指し、川崎の餃子をより個性的にするためのタレづくりが始まった。
- 定番の醤油以外の味を模索し、トマトやマヨネーズのソースなどの様々な試作が行われ、みそ味にたどり着いたという。その後も餃子の具材には白菜中心やキャベツ中心のものがあることから、どちらにも合う味になるように試行錯誤がなされた。目新しいだけではなく、定番になる味がついに完成し、平成21年(2009)より販売を開始している。販売開始後より常連客の評判も良く、売り上げは上々とのこと。
- 毎年7月にはかわさき餃子祭りが開催され、期間中に川崎区、幸区、中原区の加盟店で食事をすると、割引券の配布を受けることができる。さらに様々な商品やかわさき餃子みそが当たる抽選会も行われている。

### 補足・その他

加盟店：川崎区・天龍本館、銀座街店、仲見世店、餃子店、天龍三世、中国料理太陽軒、中華成喜、ノーブルナルキ、餃子大陸、中国料理三鶴、ラーメン中華食堂新世本店、貝塚店、東扇島店、ラーメンやすごろう、中華料理平和軒、幸区・中華酒家飯店角鹿、丸美家、宝来軒三代目、味の散歩中華村、中華六龍、狸小路飯店、中原区・中国料理一番

### 関連シート

- (1-23)銀柳街・銀座街
- (1-24)銀柳街アーケード
- (1-29)いさご通り

## かわさき区の宝物シート

宝物No.
30-1

につぼのほん

**ニッポノホン**

**移 転**

エリア	—	シーズン	—
	—	日時	—

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	東京都港区虎ノ門四丁目1番40号江戸見坂森ビル
問い合わせ	日本コロムビア株式会社
TEL	03-6895-9001 (代表)
FAX	03-6895-9115 (広報)
E-mail	
URL	<a href="http://columbia.jp/company/corporate/history/index.html">http://columbia.jp/company/corporate/history/index.html</a> (日本コロムビア株式会社/会社沿革)
交通	



写真提供：日本コロムビア（株）

### 基礎情報

■明治43年(1910)4月、日米蓄音機製造株式会社（後の日本コロムビア）から発売された国産蓄音器の第1号。朝顔形のラッパが付いている「ニッポノホン」全4機種が同社川崎工場生産され、当時の平均月収である35円（機種によって25～50円）で販売された。  
 ■平成14年(2002)の日本コロムビアの社名変更・分社化に伴い、「ニッポノホン」はコロムビアミュージックエンタテインメント(株)に移転された。その後平成22年(2010)の創立100周年を機に社名は再び日本コロムビア(株)となり、現在は港区の本社内に大切に保管されている。

### 由来・エピソード

■蓄音機が日本に初めて上陸したのは、トーマス・エジソンの発明からわずか1年後の明治10年(1877)のこと。しかし、音の出る「魔法の小箱」が商品として一般に出回るようになるのはそれから約20年後のことで、横浜の輸入商を通して日本に入ってきたのが最初であった。  
 ■この蓄音機を輸入したアメリカ生まれのフレデリック・ホイットニー・ホーンが、国産の円盤レコードと蓄音器の製造を目指して明治40年(1907)10月に設立したのが日米蓄音機製造(株)である。川崎に進出した近代産業の草分け的存在として、現在の川崎区港町に工場を建設すると、明治42年(1909)4月に操業を開始し、5月には国産第1号となる円盤レコードを発売した。そして翌明治43年4月には、国産蓄音器第1号「ニッポノホン」の製造・販売の開始に至った。同年10月に(株)日本蓄音器商会として法人化された。  
 ■昭和6年(1931)にはコロムビア商標を英国コロムビアから譲り受け、全てのレコードのマークを音符のコロムビア・マークに統一。東洋一のネオン塔が工場屋上に建てられたのもこの年である。以後、日蓄工業(株)を経て、終戦後の昭和21年(1946)、日本コロムビア株式会社に商号が変更された。  
 ■平成14年(2002)、日本コロムビアはコロムビアミュージックエンタテインメント(株)と社名を変更したが、平成22年(2010)、創立100周年を迎え、社名を再び日本コロムビア(株)とした。

### 補足・その他

■現在「ニッポノホン」の一般公開は行っていないが、企画展示などのためのレプリカの貸出を行っている。

### 関連シート

(5-4)京浜急行大師線 港町駅  
 (31-1)コロムビア・ネオン塔  
 (32-4)佐藤惣之助

※「移転」のシートでは、川崎区外に移転してしまいましたが、後世に語り継いで行きたい宝物を紹介しています。  
 「かわさき区の宝物」とは？ <http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html>

# かわさき区の宝物シート

宝物No.	かすがやまべや
30-2	<b>春日山部屋</b> <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">移 転</span>

エリア	大師地区	シーズン	通年
	中瀬・大師河原	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：春日山部屋HP

所在地	
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。

**基礎情報** 承認番号（川崎市指令ま計第159号）

■日本相撲協会所属の相撲部屋で、神奈川県に開設された初の相撲部屋であった。部屋では若い力士たちに社会人としての成長を重んじ、地域行事への参加など、積極的に行っていた。

■川崎市を本拠地とするJリーグクラブ「川崎フロンターレ」との協力関係もあり、力士がチーム名入りの浴衣を着用したり、試合時のイベントやちゃんこ作りにも参加をしていた。

**由来・エピソード**

■春日山部屋はもともとは伊勢ノ海系の名跡で、部屋は明治から大正にかけて隆盛していた。幾度かの部屋の盛衰を経ながらも昭和29年(1954)に立浪部屋の大関・名寄岩が春日山を襲名して部屋を再興。第15代春日山親方となった。

■平成25年より、第15代春日山（元大関名寄岩）の生誕100年を機に、北海道名寄市に春日山部屋後援会が発足し、交流が始まり、相撲振興に努めていた。

**補足・その他**

**関連シート**

※「移転」のシートでは、川崎区外に移転してしまいましたが、後世に語り継いで行きたい宝物を紹介しています。

「かわさき区の宝物」とは？ <http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0.html>

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	ころんぴあ・ねおんとう
31-1	<b>コロムビア・ネオン塔</b>

**思い出**

エリア	—	シーズン	—
	—	日時	—

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物



昭和6年当時のコロムビア川崎工場全景図



写真提供：日本コロムビア(株)

所在地	川崎市港町5-1（現在は撤去）
問い合わせ	日本コロムビア株式会社 (東京都港区虎ノ門四丁目1番40号江戸見坂森ビル)
TEL	03-6895-9001（代表）
FAX	03-6895-9115（広報）
E-mail	
URL	<a href="http://columbia.jp/company/corporate/history/index.html">http://columbia.jp/company/corporate/history/index.html</a> (日本コロムビア株式会社/会社沿革)
交通	京急大師線港町駅下車



### 基礎情報

■昭和6年(1931)3月、(株)日本蓄音器商会（後の日本コロムビア(株)）川崎工場の屋上に、広告塔として「音符」マークのネオンサインが完成した。東洋一の大きさを誇り、震災後に再建された当時の川崎工場群を描いた全景図にもネオン塔が記されている。第二次大戦中は撤去されていたものの、東京都内から帰宅する川崎市民にとって、わが街に戻ったことを実感させる「東海道線のシンボル」となり、多くの人々に親しまれた。

■平成11年(1999)11月、ネオン塔は新装され、直径11mと少し小振りになったものの、以前より目立つ仕掛けが取り入れられ、日没前から午後11時まで鮮やかな光を放っていた。しかし、平成14年(2002)、川崎工場の生産本部事業の分社化に伴い、多くの人々から親しまれたネオン塔は惜しまれながら撤去された。

### 由来・エピソード

■日本コロムビア川崎工場（当時の日米蓄音機製造(株)）は、川崎に進出した近代産業の草分け的存在として、明治42年(1909)4月に操業を開始した。5月には国産第1号となる10インチの片面盤の円盤レコードを発売し、翌年には国産蓄音器第1号「ニッポノホン」の製造・販売を開始した。そして大正3年(1914)の松井須磨子の『カチューシャの歌』以降、並木路子の『リンゴの唄』、古賀メロディー、美空ひばりのヒット曲など数え切れないほどの歌謡曲や、その他の邦楽、洋楽、クラシック音楽など、思い出に残る名曲がこの工場で作られ、出されていった。

■地元川崎出身の詩人で、『赤城の子守歌』『六甲嵐』『男の純情』『青い背広で』などの歌謡曲作家としても名を馳せた佐藤惣之助は、後年コロムビア専属作詞家として『湖畔の宿』『燃ゆる大空』などを手掛けている。

■なお、昭和32年(1957)に発売された美空ひばりの『港町十三番地』（日本コロムビア）は、具体的な地名は歌詞に出てこないが、今の港町5丁目付近を歌った曲といわれている。当時の日本コロムビアの所在地は「九番地」だったが、ゴロが良いことから「十三番地」にしたとの説も残る。

### 補足・その他

■平成14年(2002)、日本コロムビアはコロムビアミュージックエンタテインメント(株)と社名変更したが、平成22年(2010)に創立100周年を迎え、社名を再び日本コロムビア(株)とした。川崎工場の生産本部事業は、コロムビアデジタルメディア(株)として分社化後、平成17年(2005)に売却。

### 関連シート

(5-4)京浜急行大師線 港町駅  
 (30-1)ニッポノホン  
 (32-4)佐藤惣之助

※「思い出」のシートでは、今は無くなってしまいましたが、後世に語り継いで行きたい宝物を紹介しています。  
 「かわさき区の宝物」とは？ <http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html>

## かわさき区の宝物シート

<b>宝物No.</b>	こーひーよせ		
<b>31-2</b>	<b>かうひい寄席</b> <span style="border: 2px solid red; padding: 2px;">思い出</span>		
<b>エリア</b>	—	シーズン	—
	—	日時	—
<b>目的</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他		
<b>宝物定義</b>	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物		



<b>所在地</b>	川崎グランドホテル（閉店）
<b>問い合わせ</b>	—
<b>TEL</b>	—
<b>FAX</b>	—
<b>E-mail</b>	—
<b>URL</b>	—
<b>交通</b>	—



### 基礎情報

■昭和61年(1986)に発足し、川崎市役所のすぐ隣、川崎グランドホテルで隔月開催されていた地域寄席。平成24年(2012)、会場である川崎グランドホテルの閉店に伴い、惜しまれながら26年の幕を閉じた。

### 由来・エピソード

- ※現在「かうひい寄席」は、開催されていません。(以下は、平成22年度の「かわさき区の宝物シート」の情報です。)
- 川崎出身で落語協会所属の落語家・初音家左橋師匠が必ず一席うかがう。毎回、前座さんにつづいてニツ目さん、コーヒーブレイクの「中入り」をはさんで二人の真打ちが熱演した。漫才など「色物」が加わることもあった。
- 寄席演芸専門の情報誌「東京かわら版」に出演者の組み立てをお願いしていた。あとはすべて、地元の落語好きな仲間達の運営。プログラム作成は織戸さん、広報と金庫番は福嶋さん。寄席の看板である席亭は酒井靖恵さん。手づくりの運営が好評でこひいきさんから根強い人気を集めていた。椅子席なので気楽な姿勢で噺を堪能できたのも魅力。
- 耳の肥えたお客さんも多く、落語家さんからもやりやすい寄席と評判をとっていた。
- かうひい寄席の誕生は、今は閉店した老舗喫茶店「小宮珈琲店」であった。オーナーが店内で楽しい催しを考え、地元の有志と地域寄席を始めた。平成5年11月までの7年間、88回で幕を閉じた。
- しかし、酒井席亭の求心力は世話人を集めた。翌年3月には89回目が開催された。場所はグランドホテルが快く引き受けてくれた。会場をつくって終わったあとに翌日の朝食のためにテーブルと椅子を並べ直す。仲入りにコーヒーを用意する。大きな力になっていた。
- 復活のもう一つの力は三笑亭夢三四さんだった。左橋師匠（当時はニツ目金原亭小駒さん）と交代で出演していた夢三四さんは病に倒れ、病床からも続けることを強く望んだ。残念ながら再開後の高座に上がることはできなかった。
- 「旦那衆」という応援団があった。年会費1万円で招待券3枚をお渡ししていた。木戸銭が2000円なので残りは運営費の重要な部分を占めていた。開催当日の受付には旦那衆の木札が飾られた。旦那は稲毛神社市川宮司。
- 原則、奇数月の第二火曜日に開催されていた。（午後6時開場・午後6時半開演）

### 補足・その他

### 関連シート

※「思い出」のシートでは、今は無くなってしまいましたが、後世に語り継いで行きたい宝物を紹介しています。  
 「かわさき区の宝物」とは？ <http://www.city.kawasaki.jp/kawasaki/category/94-10-2-7-2-1-0-0-0-0.html>

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	こいずみじだゆう
32-1	<b>小泉次大夫</b>

エリア	中央地区	シーズン	通年
	宮前・貝塚	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	川崎区宮前町6-5 (泉田二君功德碑)
問い合わせ	妙遠寺
TEL	044-222-7162
FAX	044-211-7164
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分



### 基礎情報

■水利土木技術を代々受け継ぐ家に生まれた小泉次大夫は、天正18年(1590)徳川家康の家臣として江戸に入り多摩川の治水奉行に任命される。当時の多摩川は度重なる大洪水の影響で村々は荒廃していた。人々の苦しい生活に胸を痛めた次大夫は、家康に農業用水路の開削と新田開発を進言した。

■江戸開幕の直前であった慶長2年(1597)、次大夫は世田谷・六郷領(現在の世田谷・大田区)の『六郷用水』、稲毛・川崎領(現在の川崎市)の『二ヶ領用水』の開削に着手し、以後14年にわたる難工事の陣頭指揮をとった。そして慶長16年(1611)、多摩川で初めてとなる農業用水路が完成し、以降、六郷用水沿川49箇村、二ヶ領用水沿川60箇村の耕地は大幅に村高が増加し、後年に至るまで大きな恩恵を享受できたのである。

### 由来・エピソード

■次大夫は駿河国富士郡小泉郷(現・富士宮市)の鎌倉期以来「樋代官」を歴任してきた植松家の嫡男として生まれた。植松家は今川義元の旧臣で、富士山の雪解け水で氾濫を繰り返す土地柄であったため、治水工事に精通していたと伝えられている。今川家の没落後、44歳の時に次大夫は徳川家康による武田攻略に参陣し、家臣に取り立てられる。天正18年(1590)、家康の関東入国に従うことを決意し家督を弟に譲り、自らは小泉姓に改めた。改姓は信任の厚かった一歳違いの家康の命によるもので、かねてから出身地になみな家康は次大夫を「小泉」と呼んでいたのである。

■7年後の慶長2年(1597)、次大夫は58歳にして大工事に着手する。故郷からは石川吉久など用水土木技術に精通した有能な技術者集団を呼び寄せた。関係する村々では多くの農民たちが資材や労力を提供し協力した。人夫は各農家の次男以下を徴用し、二ヶ領用水と六郷用水の工事を3ヶ月交代で進めるなど、村の農業生産力の低下をまねかないよう配慮するとともに、グループごとに女性を加えることで労働の士気向上を図ったという。このことから二ヶ領・六郷用水のそれぞれで「女堀」の別称が残っている。こうして二ヶ領用水全長32km、六郷用水全長23km、多摩川両岸の大用水路網が完成した時、次大夫は74歳を迎えていた。

■工事開始時に現在の中原区小杉陣屋町に拠点を設けた際、次大夫が付近の廃寺を再興し新たに開基した「妙泉寺」が、今の宮前町の妙遠寺の前身である。後に日純上人が川崎宿砂子に妙泉寺の本堂を移し妙遠寺を創建した。晩年の次大夫は砂子の妙遠寺で隠居生活を送り、川崎宿が成立した元和9年(1623)12月8日、85歳の生涯を終えた。妙遠寺境内の泉田二君功德碑は、小泉次大夫と田中休愚の二人の偉業を讃え明治時代に建立された「水恩の碑」である。また「逆(あらかじ)め戒名をつける・冥福を修める」という意味の逆修塔(生前につくられた小泉次大夫夫妻の墓塔)が丁重に祀られている。

### 補足・その他

■明治期以降、二ヶ領用水は農業用水だけでなく工業用水としても利用されるようになり、川崎や横浜の工業地帯の発展に大きな貢献を果たした。少し前までは都市排水路として工場廃液や生活排水の流入で汚れていたが、最近では地域住民による美化運動などが実り、現在では都市生活に潤いを与える環境用水として桜並木や親水施設、散策路などが整備されている。川崎の礎を築いてきた歴史性豊かな用水は、市民が水に親しむ空間、地域のシンボルとして新たな役割を果たしている。

### 関連シート

(3-1) 妙遠寺・泉田二君功德碑  
(32-2) 田中休愚

# かわさき区の宝物シート

宝物No.	たなかきゆうぐ <b>田中休愚</b>
32-2	

エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北～宮前・貝塚	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



泉田二君功德碑（妙遠寺）



田中本陣跡（旧東海道）



手洗石（稲毛神社）

写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

所在地	川崎区宮前町6-5（泉田二君功德碑）
問い合わせ	妙遠寺
TEL	044-222-7162
FAX	044-211-7164
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より徒歩10分（泉田二君功德碑）



## 基礎情報

■江戸時代中期、22歳で川崎宿の本陣職・田中家の娘婿となった休愚は、45歳で田中家を相続、六郷川の渡船権を獲得し財政難にあえぐ川崎宿を見事再建した。大著『民間省要』が八代将軍吉宗に認められ、幕府の治水事業に大きな貢献を果たす。小泉次大夫による完成の後、すでに110年余りが経過していた二ヶ領用水の大改修工事や、多摩川下流の築堤工事などを完遂した。  
 ■一介の農民から町人、武士、さらに三万石支配の代官職にまで立身出世を果たした異色の民政家、地方(ぢかた)巧者として名高い。今日の川崎の発展の礎を築いた最大の功労者のひとりに数えられる。

## 由来・エピソード

■寛文2年(1662)3月、多摩郡平沢村（現・東京都あきる野市）の窪島家に生まれた休愚は、幼少より向学心旺盛、父祖伝来の農業の傍ら、絹仲買の商いも兼業し諸国行脚によって多くの生きた学問を体得して育った。小向村（現・幸区）の田中原左衛門家に入りし縁から、同族の川崎宿本陣職・田中兵庫の養子に迎えられた。宝永4年(1707)45歳で家督を継いだ休愚に関東郡代・伊奈半左衛門忠順が注目した。疲弊困窮していた川崎宿の惨状に頭を痛めていた半左衛門から対策の要請を受けた休愚は、「六郷の渡船権を川崎宿で請け負い収益を伝馬役の財源に充てる」という画期的な再建築を上申。半左衛門は直ちに幕府へ請願を提出し、また本陣職に加え問屋役、名主の三役を休愚に兼任させた。渡船権請負は実現し、川崎宿に復興と繁栄をもたらす基が築かれた。  
 ■正徳元年(1711)江戸に遊学に向かった休愚は、儒学者・荻生徂徠や将軍側近・成島道筑に師事した。そして若き日の農村生活と諸国行脚の実体験、修得した学識、名主としての経験を土台に、十七巻におよぶ民政の意見書『民間省要』を享保6年(1720)に書き上げた。年貢・治水・農民生活など多岐にわたる具体的な提言が記された壮大な警世の書は、将軍吉宗へと献上され「享保改革」など幕政にも大きく寄与した。河川管理の責任者「川除御普請御用」に登用された休愚は、荒川や多摩川下流の大丸用水、二ヶ領・六郷用水の大改修工事など多くの治水事業で成功をおさめた。そして宝永の富士山噴火災害に苦しむ酒匂川においても、難工事を克服した休愚を、幕府は高く評価し、多摩・埼玉二郡三万石代官、二十人扶持、支配勘定格に抜擢したのである。  
 ■引き続いての多摩川最下流、旭町から大師河原までの堤防改修を終え、享保14年(1729)12月、休愚は江戸の役宅で没した。享年67歳。この川崎宿地域で堤防高を2.4mもかさ上げした堤防補強工事において、現在の連続堤の基礎が完成したとみられている。休愚の治水工法は、関東流や紀州流という当時主流の工法には見られない要素が多く、休愚をして「多摩川流」という独自の河川土木技術を起こしたともいわれ、後のわが国の河川土木技術の発展に極めて大きな影響を与えたと評価されている。

## 補足・その他

■二ヶ領用水の改修直後には、3年間かけての川崎地内の石橋架設工事にも着手。小土呂橋も享保11年(1726)に木橋から石橋へと改修された。この16年後の洪水後に再度架け替えられた石橋が、現在稲毛神社に残る小土呂橋遺構である。  
 ■妙遠寺境内には、小泉次大夫と田中休愚の二人の偉業を讃えた「泉田二君功德碑」が置かれ、稲毛神社には休愚の没後、冥福を祈念して一族と手代衆によって奉納された手洗石がある（市の重要歴史記念物）。菩提寺は多摩川の堤防の傍らに位置する田中山妙光寺（幸区）。田中家代々の墓とともに、休愚の江戸遊学の際に代官職を継いだ子の休蔵による碑文や灯籠などが並んでいる。

## 関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-6)田中本陣跡
- (1-15)稲毛神社 手洗石
- (2-7)小土呂橋の親柱(擬宝珠)
- (3-1)妙遠寺・泉田二君功德碑
- (5-1)六郷の渡し・明治天皇の碑
- (32-1)小泉次大夫

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	いけがみゆきとよ <b>池上幸豊</b>		
32-3			
エリア	大師地区	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代的な文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物		



池上幸豊翁之碑（汐留稲荷）



池言坊(上)と四谷義田神社



所在地	川崎区池上新町2-24-21（汐留稲荷） 川崎区大師駅前2-1-2（池言坊） 川崎区四谷上町23-238（四谷義田稲荷）
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	



### 基礎情報

■現在の池上新町と池上町は、江戸時代に海を埋め立て水田を干拓した池上太郎左衛門幸豊の姓を冠して「池上新田」と命名された場所である。

■享保3年(1718)に大師河原村に生まれ、12歳の時に亡くなった父幸定の跡を継ぎ大師河原村の名主となった幸豊は、算数や農業、天文など和漢の書に学び、国益にたった殖産興業を強く志すようになった。そしてかねてから幕府に願っていた新田開発の許可を得ると、宝暦6年(1756)に沿岸部の開拓に着手する。767両余りの費用と6年の歳月をかけて面積14町5反余(約143ha)の新田が開発され、宝暦12年(1762)池上新田村の誕生に至った。

■幸豊は新田開発以外にも、製塩や芒硝(医薬品の原料)、養魚、ニンジン栽培、ナシ・ブドウの果樹栽培、和製砂糖の製造と関東諸国への製法伝授の行脚など殖産興業に多大な貢献を果たし、また文人としても貴重な記録や随筆などを残した。まさに川崎の殖産、文化の先駆者となり、寛政10年(1798)2月、81歳の長寿を全うした。

### 由来・エピソード

■池上氏は藤原忠平の後胤とされ、元々は荏原郡千束郷(現・大田区千束)に住んでいた。初代の宗仲は日蓮上人に帰依して池上本門寺を建立、幸豊の曾祖父で「水鳥記」にも酒豪として登場する21代幸広は、池上家の土地約7万坪の他、日蓮上人ゆかりの品々を本門寺に寄進して、一族郎党を引き連れ大師河原に移住する。やがて多摩川河口に稲荷新田(現在の殿町・江川・田町など)の開拓に成功し名主となった。新田開発技術は幸広から幸忠、幸定、そして24代幸豊へと引き継がれた。

■延享3年(1746)幸豊は、代官所へ新田800町歩(約800ha)の臨海地一帯の開発願いを提出する。ところが規模が大きすぎたこともあり、許可はなかなか下りず、100町歩、40町歩と縮小を余儀なくされ、8年後の宝暦3年(1753)になりようやく15町歩の開発が認められた。幸豊は家伝書に基づき独特の海中新田開発工法を編み出していた。「笹出し」と呼ばれる方法で、干潮で風の強い時に海岸に何箇所も杭を打ち、周辺に笹を立てて砂が集まるようにする。出来た砂山を茅や葦を植えて固め、それを徐々に拡大するというものであった。

■幸豊の新田開発に参加した村民の多くは貧しい人々であり、新田開発はこうした村民のためのものとし、新田での収益は雑穀の貯蔵や村普請の資金、村民への貸付けなどにあてられた。このような田畑を「義田」といい、四谷上町にある義田稲荷神社はこれに由来している。

■池上新田完成の功績を認められた幸豊は、幕府の命を受け新田開発の可能な土地の巡視に赴くことになる。宝暦13年(1763)には現在の大師区から横浜市にかけての海辺を、翌14年(1764)には現在の保土ヶ谷区から八王子市にかけての山林原野を見てまわった。幕府は幸豊の新田開発に対する造詣の深さと卓越した計画力、指導力、技術力等に注目し「新田世話役」として重用したのである。その任を退くまでの10余年間、池上新田村の名主役を勤める一方で、幕府の新田開発政策の推進に大きく寄与した。

### 補足・その他

■汐留稲荷で祭神として祀られるとともに、功績を讃える「池上幸豊翁之碑」が建立されている。

■幸豊から6代目にあたる池上幸操は安政2年(1855)生まれ。明治12年(1879)に県会議員に当選して以降、生涯にわたり多摩川の治水事業に尽力した人物として知られる。

■大師駅前の池言坊は池上家代々の墓所で、崇祖の志が篤く常に清掃や細かな手入れが行き届き、幸広以来の一家一門の墓塔が数10基並んでいる。

### 関連シート

(10-2)池言坊  
(10-7)水鳥の祭  
(12-1)四谷義田稲荷神社  
(13-1)汐留稲荷  
(28-1)港湾施設(埋立地)

# かわさき区の宝物シート

宝物No.	さとうそうのすけ <b>佐藤惣之助</b>
32-4	



エリア	中央地区	シーズン	通年
	川崎駅前北	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物



所在地	
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会)
FAX	044-221-9117 (かわさき歴史ガイド協会)
E-mail	
URL	
交通	



## 基礎情報

■郷土川崎をこよなく愛した詩人。大正から昭和初期にかけて活躍した佐藤惣之助は、代々川崎宿砂子の本陣職を務め、明治維新後は雑貨商「藤屋」に転じていた佐藤家の次男として明治23年(1890)12月3日に生まれる。東京麻布の商家に丁稚奉公に出ていた12歳の頃から俳句を始め、劇作を経て、詩作へと活動の中心が移った。大正5年(1916)、25歳で処女詩集『正義の兜』、翌年には『狂へる歌』を出版、以後生涯にわたり22冊の詩集を刊行した。さらに随筆、句集、小説、釣書、戯曲など多才で自由闊達な創作活動にも身を投じた。川崎市からの委託による『川崎小唄』『川崎音頭』の作詞(昭和5年(1930))や高津区溝ノ口の国木田独歩の記念碑建立の発案(昭和9年(1934))など、川崎における文化活動へも大きく貢献している。

■昭和8年(1933)に初めて歌謡曲の作詞を手掛けると、翌年に『赤城の子守歌』が大ヒット。歌謡曲作家としても不動の地位を築き、『緑の地平線』『男の純情』『青い背広で』『人生劇場』などが次々とヒットした。有名な阪神球団歌『六甲嵐』は、昭和11年(1936)に『大阪タイガースの歌』としてつくられたが、広く愛唱されるようになったのは昭和40年代半ば以降のことである。

■昭和15年(1940)、日本コロムビアの専属作詞家となって『湖畔の宿』『燃ゆる大空』などを手掛けたものの、2年後の昭和17年(1942)5月15日、過労から倒れ帰らぬ人となった。享年51歳。惣之助が作詞した歌謡曲の数は660編をこえるといわれている。

## 由来・エピソード

■惣之助は酒と釣りと旅もまたこよなく愛したと伝えられる。大正11年(1922)、31歳での初の沖縄・台湾旅行から、昭和10年(1935)頃までの間に満州・北支、朝鮮、上海・香港、広州、マカオなど旺盛にアジアへの巡遊の旅を楽しんだ。特に初めての沖縄への旅は、惣之助の人生にとって大きな意味をもった。沖縄本島を馬車で巡り、慶良間諸島では巫女の家滞りし大いに学ぶべきものを得たという。旅の成果は、詩集『琉球諸島風物詩集』『颯風の眼』や紀行文『蠅と蜚』などに結実し、伊波南哲など沖縄出身詩人が惣之助主宰の「詩の家」に入りし親交を深めた。そして昭和元年(1926)、富士瓦斯紡績工場で働く女子工員など沖縄出身者が中心となって芸能大会が開かれた際に、惣之助が激励に駆けつけ、主催者一同大いに感激したという。

■この沖縄芸能は第二次大戦後「川崎沖縄芸能研究会」の結成へと発展し、昭和29年(1954)には神奈川県の無形文化財に指定されたのであるが、他県由来の伝統芸能の指定に尽力したのが、当時川崎市教育委員会に在職していた古江亮仁氏(故人)であった。翌昭和30年、惣之助の詩碑の建立の話が進められた時に、古江氏は偶然にも故郷の先人・佐藤惣之助の沖縄への深い関心と愛情をはじめて知ることとなり、驚きとともに深い感銘を受けたという。そしてすぐに、川崎市民の名で惣之助の詩碑を沖縄に贈呈建立することを発案した。現在、惣之助がかつて漁船で巡った鳥ヶを遙かに望む那覇市首里城の景勝地には、琉球諸島風物詩集の中の一編『宵夏』の詩碑が建っている。

■現在、区内には佐藤惣之助の詩碑が3箇所に置かれている。川崎市体育館前の碑は、昭和30年(1955)武者小路実篤に『華やかな散歩』の一節を揮毫してもらい建立したもので、佐藤本陣跡の向かい川崎信用金庫前には昭和54年(1979)に生誕の地記念碑が建てられ、円錐勝氏による彫像と嗣子・佐藤沙羅夫氏による揮毫の『青い背広で』の詩が刻まれる。また、惣之助が幼い頃、山王祭りの日に横浜から遊びにくる親類の女の児への想いを綴った『祭りの日』の碑は稲毛神社境内に建つ。幼い客こそは後の花枝夫人であり、惣之助夫妻生誕100年を記念して昭和62年(1987)に建立されたものである。

■市立川崎小学校の校門脇に同校の出身である佐藤惣之助、坂本九の功績を記した看板が設置され、平成17年(2005)3月8日に除幕式が行われた。

## 補足・その他

■昭和51年(1976)、古江氏の提唱によって「川崎今昔会」が設立された。同会の主催で毎年2回、5月の命日の「酔花忌」と12月の誕生日の「蘭汁会」という惣之助を偲ぶ会が現在も開催されている。

■平成22年(2010)に、佐藤惣之助の生誕120周年を記念して、川崎今昔会と川崎区役所の主催による「佐藤惣之助生誕120年記念展『華やかな散歩』」が開催された。

## 関連シート

- (1-1)川崎宿
- (1-14)稲毛神社
- (1-25)佐藤本陣跡・佐藤惣之助の碑
- (6-9)沖縄民俗芸能

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	さかもときゆう <b>坂本九</b>		
32-5			
エリア	中央地区	シーズン	通年
	八丁囃	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物		



所在地	川崎区日進町20-1 川崎小学校(看板) 川崎区駅前本町 川崎駅東口駅前広場(歌碑)
問い合わせ	
TEL	
FAX	
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅から徒歩10分(看板) JR川崎駅から徒歩2分(歌碑)



※川崎市の承認を得て同市発行の都市計画基本図を複製したものです。  
承認番号（川崎市指令ま計第159号）

### 基礎情報

- 日本で唯一人の全米No.1歌手。
- 川崎区生まれ。昭和29年(1954)川崎市立川崎小学校卒業。日本の代表的な歌手で、『上を向いて歩こう』『見上げてごらん夜の星を』『涙くんさよなら』などのヒット曲が多数ある。特に、『上を向いて歩こう』は『スキヤキ』というタイトルで、その年のアメリカで3週連続ヒットチャート第1位を獲得、世界中で今までに2千万枚以上のヒットを記録した唯一の日本の名曲である。世界的に有名になった最初の日本人歌手として今も親しまれている。

### 由来・エピソード

- 市立川崎小学校の校門脇に同校の出身である佐藤惣之助、坂本九の功績を記した看板が設置され、平成17年(2005)3月8日に除幕式が行われた。
- 看板の掲載内容については、「わたしたちの先輩」と入れるなど生徒達にも親しみやすいデザインとされた。除幕式では、参加者全員で佐藤惣之助作詞の六甲おろし（阪神タイガース球団歌）、そして坂本九の「ともだち」を合唱した。また坂本九の次女の舞坂ゆき子さんも会場を訪れ「父の歌をみんなが歌い継いでくれるのは非常に嬉しい」との挨拶があった。
- 没後30年目にあたる平成27年(2015)、JR川崎駅東口駅前広場に坂本九の歌碑が設置された。同年4月11日に行われた除幕式には、妻の柏木由紀子さん、娘の大島花子さん、舞坂ゆきさんらも出席。歌碑には、坂本九の代表曲「上を向いて歩こう」の歌詞とともに、柏木さんによって作成されたプロフィールが刻まれている。
- 歌碑の頂上部がくぼんだ形状は、「涙がこぼれないように」という「上を向いて歩こう」の歌詞を表現している。

### 補足・その他

### 関連シート

- (20-1) 桜本商店街日本のまつり
- (32-4) 佐藤惣之助

## かわさき区の宝物シート

宝物No.

32-6

# えぬぴーおーほうじんかわさきれきしがいどきょうかい NPO法人かわさき歴史ガイド協会

エリア	全域	シーズン	通年
	—	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input checked="" type="checkbox"/> その他
宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input checked="" type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物

所在地	川崎区大師駅前2-13-16 若宮八幡宮内
問い合わせ	NPO法人かわさき歴史ガイド協会
TEL	044-221-9117
FAX	044-221-9117
E-mail	
URL	
交通	



写真提供：NPO法人かわさき歴史ガイド協会

### 基礎情報

■平成12年(2000)4月、川崎大師地域を愛する地元のボランティアの方々により『川崎大師観光ガイドの会』が発足し、川崎大師周辺から川崎区全体までの観光ガイド活動を通じた地域文化の振興とにぎわいのあるまちづくりに尽力してきた。  
 ■平成16年(2004)10月、新たに『NPO法人かわさき歴史ガイド協会』として生まれ変わった。地下街アゼリアにオープンした観光案内所では川崎を訪れる人たちに協会メンバーが市内全域の名所などの案内を行っている。また、総合学習の一環として地元の小中学生を対象とした歴史・史跡ガイドやレクチャーなどや高齢者の生涯学習支援（訪問ガイド）なども随時実施している。

### 由来・エピソード

■川崎大師観光ガイドの会は、若宮八幡宮の前宮司（故人）の発案から、地元の郷土史家や商店街の協力のもとに発足。川崎区役所でも、この活動を側面から支援するため、まちづくり事業の一環として「川崎大師ボランティアガイド養成事業」を立ち上げた。第1期33名、第2期28名、計61名が養成講座を終了した。第1期修了者が主体となって活動がスタートした。  
 ■ガイドコースは以下の4コース。見学者の希望に応じたアレンジも受け付けている。  
 【川崎宿めぐり】（約2時間30分）  
 港町駅→六郷の渡し→万年跡→真福寺→田中本陣跡→内侍所奉安所跡→一行寺→宗三寺→問屋場跡→稲毛神社→妙遠寺(泉田二君功德碑)→詩人佐藤惣之助生家跡→小土呂橋遺構→教安寺→芭蕉の句碑→芭蕉ポケットパーク→無縁塚→京急八丁駅  
 【大師道めぐり】（約3時間）  
 港町駅→六郷の渡し→徳泉寺→医王寺→河港水門→池言坊→若宮八幡宮・金山神社→京急発祥の地碑→馬頭観音→川崎大師平間寺・境内石碑→瀟秀園(中国庭園)→明長寺→川崎大師駅又は東門前駅  
 【ご利益めぐり】（約3時間30分）  
 川崎大師駅→大師稻荷神社→千蔵寺→法栄寺→田町殿島神社→日ノ出殿島神社→塩浜神明神社・塩釜神社→四谷義田稻荷神社→弁天神社・八海山神社→石観音→藤崎願掛け地蔵→川中島神明神社→川崎大師駅  
 【田島めぐり】（約2時間30分+2時間）  
 京町バス停→源頼政塚→円能院→日枝大神社→成就院→新田神社→さつき橋道標(庚申塔)・臯月橋親柱(ここまで2時間30分)→大島八幡神社→真観寺→了延庵→中島八幡神社→遍照寺→延命地蔵尊→港町駅

### 補足・その他

■アゼリア観光案内所の業務時間は午前10時～午後5時（原則としてアゼリア休業日以外は無休）。

### 関連シート

(1-1)川崎宿  
 (1-21)アゼリア・宇宙カプセル  
 (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室  
 (10-17)川崎大師平間寺

## かわさき区の宝物シート

宝物No.	かわさきまいすたー <b>かわさきマイスター</b>		
32-7			
エリア	—	シーズン	通年
	—	日時	
目的	<input type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input checked="" type="checkbox"/> その他		
宝物定義	<input checked="" type="checkbox"/> ものづくり <input type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input type="checkbox"/> 歴史的なもの <input checked="" type="checkbox"/> 人物		
所在地	川崎市川崎区駅前本町1番地2 フロンティアビル6階		
問い合わせ	川崎市経済労働局労働雇用部		
TEL	044-200-2242		
FAX	044-200-3598		
E-mail	28roudou@city.kawasaki.jp		
URL	http://www.city.kawasaki.jp/25/25kinrou/home/mister/index.htm (かわさきマイスター)		
交通			



写真提供：川崎市経済労働局労働雇用部

### 基礎情報

- 川崎市では極めて優れた技術や卓越した技能を発揮して、産業の発展や市民生活を支える「もの」をつくりだしている市内最高峰の技術・技能職者を「かわさきマイスター」に認定し、素晴らしい匠の技術の継承や超一流の技能の普及・振興活動を支援している。
- 平成27年度までに美容師・板金・ものづくり多能工など65職種86名の匠が「かわさきマイスター」として認定されている。(川崎区内に在住または在勤の方は24名)

### 由来・エピソード

- かわさきマイスター制度は「ものづくり都市川崎」の基盤となる技術・技能職者の尊重・継承・発展を願うシンボリックな存在として、平成9年度に創設された。平均年齢67歳で勤続年数40年以上の各職種の「達人」であり、世界的に高い評価を得ているマイスターもいる。
- 応募条件は、①市内に1年以上在住・在勤の現役の技術・技能者②年齢40歳以上、応募職種に勤続25年以上であり、自薦・他薦は問わない。毎年4月～5月に募集を行い、厳正なる選考を経て、11月中旬に発表される。認定者には認定証、報奨金、記念品が贈呈される。
- かわさきマイスターは、教育現場、企業等にて実演、実技指導等、技能会館等にて講習会を開催し、技能継承や後継者育成に努め、技術・技能に対する認識を深めている。また、市民祭りや各区民祭りなどにて長年培った超一流の「技」を披露・製品展示し、技術・技能の普及・振興活動を行う。マイスターの技能を集結したものづくり事業に取り組んでいる。

### 補足・その他

- 川崎区在住・在勤のマイスターの方々
  - 【平成9年度】佐々木淑子(美容師)、佐藤武(石工・石積み)、中村量貢(建築板金)
  - 【平成10年度】山城薫(重量とび)
  - 【平成11年度】大橋明夫(プレス順送・金型設計制作)
  - 【平成12年度】鍵屋清作(金属ヘラ絞り)、熊谷隆(プラント溶接)
  - 【平成13年度】石川精三郎(製缶士)
  - 【平成14年度】小林伸光(和服洗い張り)、前原昭(木型工)
  - 【平成17年度】竹内三郎(円筒研削技能士)
  - 【平成18年度】鈴木貞吉(難切削特殊加工)
  - 【平成19年度】飯嶋義弘(時計技能士)、野浦悠一(ものづくり多能工)
  - 【平成20年度】平賀正明(生産システム(加工・組立)の設計・製作)
  - 【平成21年度】久保田宗孝(デザイン彫金士)
  - 【平成22年度】出井明(椅子製造業)、永恵一(クリーニング)
  - 【平成23年度】伊原正男(内装仕上技能士)、堀切義昭(金属製品塗装技能士)
  - 【平成24年度】小林昭二(築炉工)、二宮泰雄(表面処理)
  - 【平成25年度】比屋根卓(板金工)
  - 【平成26年度】吉澤秀人(金属切削加工)
  - 【平成27年度】伊藤日出世(難削材精密加工)、島田昌順(電気めっき技能士)
- 敬称略

### 関連シート

(5-6)金床(福嶋鐵工所)